



セゾン投信 月次運用レポート

長期投資家の皆様へ

世界のマーケットの5月前半は楽観が広がっていましたが、下旬に入って新たな悲観材料が欧州に生まれました。イタリアの政局混乱です。選挙によりポピュリズム（大衆迎合主義）勢力が台頭、月末にはようやく連立内閣が発足する見通しとなったものの、一時は組閣寸前で瓦解となって政権が組めない状態に陥っていました。

まだ収束に向けた先行きは不透明で、市場では数年前のユーロ危機を想起してリスクテイクを縮小させる資金フローが起きているわけで、欧州のみならず米日の株式市場でも売り優勢の下落基調が続いて、同時に通貨はユーロ安と円高傾向に転じました。イタリア問題はすぐに劇的変化につながる状況ではないですが、処方箋が明確でないため政治的混乱は長引くかもしれません。

足元では株価調整と円高が同時に進んだことから、「セゾン号」の基準価額はそれを反映して下げ基調で月末を迎えましたが、「セゾン号」の皆さまには十分な耐性が備わっているはずで、3%を超えていた米長期金利は再び低下して、「セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド」のバランス型ポートフォリオは価格安定機能がしっかり作用しており、「セゾン資産形成の達人ファンド」のアクティブ運用も地域分散が有効性を発揮しています。

マーケットはいったん全体にオーバーシュートして反応していますが、その後は実体経済の強い処から回復して、やがてトータルなファンダメンタルズが反映されるものです。世界経済は拡大基調を変えておらず、低金利傾向がそれを支え、株式市場も安定した事業収益力を持つ企業からリバウンドするはずで、「セゾン号」のアクティブ運用には相対的に力量を発揮し易い環境でもありましょう。

長期投資家にとっては言うまでもなく投資行動を継続することが何より大切な時期で、こうした下落調整は将来の果実が育つ前提でもあるのです。年初からの能天気な適温相場なるものはすっかり終焉して、良い材料も悪い材料も有りの、ごく普通な相場に戻っただけで、これからも楽観と悲観を繰り返しながらの相場を乗り越えて長期投資の旅は続きます。事象をしっかり把握しつつも、どっしりと進んで参りましょう。

代表取締役社長 中野 晴啓

ご留意事項

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記述者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮していません。

投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

委託会社：セゾン投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第349号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
<https://www.saison-am.co.jp/>

お客さま窓口：03-3988-8668 営業時間 9:00～17:00（土日祝日、年末年始を除く）

セゾン資産形成の達人ファンド

5月の市場動向

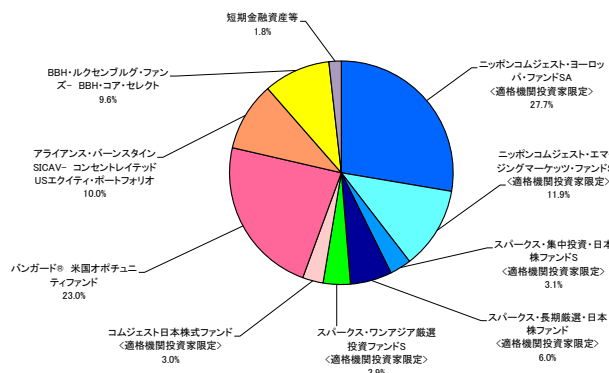
株式：【米国を中心に景気の堅調さが確認されたものの、新興国やイタリアの債務問題への懸念が強まり力強さを欠く動き】
途中まで景気の先行きに対する明るい見方が維持され堅調な展開となったものの、中盤以降は新興国のドル建て債務問題に対する懸念が強まったほか、イタリアで政治的な混迷により債務問題が再燃することへの懸念が強まり、リスクを避ける動きが広がって下落しました。

為替：【ユーロが下落しドルが上昇。円は終盤に上昇し、対ドルで小幅な円高、対ユーロで円高】
ユーロが域内の景気の先行きに対する楽観的な見方が後退するなかでイタリアの政治的な混迷への懸念が強まって下落する一方で、ドルは米国で景気の先行きに対する明るい見方が維持されて堅調な展開となりました。円は終盤にリスク回避の動きが強まって上昇しました。

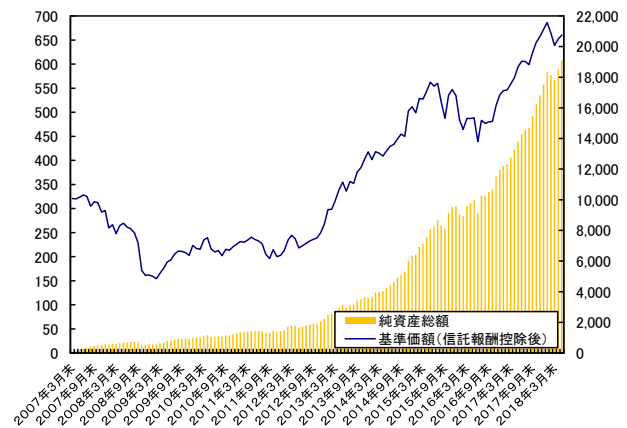
基準価額と純資産総額及び騰落率（2018年5月31日現在）

基準価額	純資産総額	設定来騰落率	過去1ヶ月の騰落率	過去6ヶ月の騰落率	過去1年間の騰落率
20,760円	607.7億円	+107.60%	+1.30%	+0.49%	+11.18%

資産配分状況(2018年5月31日現在)



純資産総額(億円) 基準価額と純資産総額の推移(設定来/月次) 基準価額(円)



5月の運用状況

今月の投資スタンス

今月は、定期積立プランなどのご購入により皆様からお預かりした資金を利用して、コムジェスト・エマーゼンディングマーケット・ファンド、コムジェスト・ヨーロッパ・ファンド、BBH・コア・セレクト・ファンド、スパークス・ワンアジア厳選投資ファンド、アライアンス・バーンスタイン・米国株式集中投資ファンド、米国オポチュニティファンド、コムジェスト日本株式ファンド、スパークス・長期厳選・日本株ファンドへの投資を行いました。なお、現金比率は前月からほぼ変わらず、月末時点で約1.8%です。

ファンドマネジャーからの一言

5月もトランプ米国大統領の発信や政権の動きは市場の注目を集め、貿易赤字の縮小を目指して行われている貿易交渉の動向、イランとの核開発を巡る合意からの離脱、北朝鮮との首脳会談の行方などが金融市場に大きな影響を与えました。また、中盤以降はイタリアの政治的な混迷も金融市場の注目を集めました。

政治的な情勢は、企業や個人が活動する土台となる環境に影響を与えるという点で無視できないものですが、長期の資産形成においては、目先の状況の変化に捉われすぎることなく、常に長期的な視点で個別銘柄の本質的価値を見極め、現在の価格との差が大きくなっていて割安と考えられる銘柄への投資を継続して行っていくことが、最も重要なことであると考えています。

当ファンドでは引き続き、地域的な分散を意識して資産配分を行うと共に、投資先ファンドを通じて、安全性や長期的な収益力を基準に銘柄の選別を行い、短期的な価格の動きではなく投資対象の価値を重視して株式投資を行うことでリスクを抑えながら、皆さまの継続的な投資を通じた長期的な資産形成のお役に立てるように努めて参ります。

運用部長 瀬下 哲雄

基本的な投資スタンス

私共が投資対象としているファンドは、いずれも中長期的な視点で投資を行っておりますが、保有している株式が割高となった場合やより良い投資機会を発見した場合、投資先の状況に大きな変化があった場合等については銘柄の売却を行うことがあります。もちろん、どのファンドも長期投資の理念を共有しており、短期的な売買を繰り返すことはありません。

私共は各投資対象ファンドについて、各ファンドがカバーする銘柄選択の対象を幅広くすることを意識しながら目標とする地域及びファンド毎の配分比率を決定します。その上で、主にファンドの購入により配分比率の調整を行っております。もちろん、短期的な市場動向の予測に基づいて投資先ファンドの売買を行うことはございません。

当ファンドでは、各投資対象ファンドがファンダメンタル分析に基づく中長期的な視点から各銘柄への投資を行い、その上で私共が十分に国際分散を図ることができるように資産配分を行うことで、皆様の長期的な資産形成に資するよう運用を行っております。

当ファンドに係るリスクについて

当ファンドはファンド・オブ・ファンズであり、主として投資信託証券に投資を行います。当ファンドは、株式や公社債を実質的な主要投資対象としており、株式や公社債の投資に係る価格変動リスクを伴います。一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動し、また、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、当ファンドはその影響を受け、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また当ファンドは外貨建資産に投資し、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替変動の影響を受け、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。

したがって、ご投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「価格変動リスク」や「為替変動リスク」、「カントリーリスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」などがあります。

※詳しくはセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

当ファンドに係る手数料について

お客様には以下の費用をご負担いただきます。

◆購入時に係る費用

購入時手数料はかかりません。

◆解約時に係る費用

解約手数料はかかりません。なお、解約受付日の翌々営業日の基準価額に対して0.1%の信託財産留保額が控除されます。

◆保管期間中に間接的にご負担いただく費用

信託報酬

ファンドの純資産総額に年0.5724%（税抜0.53%）の率を乗じて得た額とします。その他投資対象である投資信託証券において信託報酬がかかります。当該信託報酬も間接的に受益者の方にご負担いただく費用となりますので、実質的な信託報酬は、年1.35%±0.2%（税込/概算）となります。

その他の費用・手数料

当ファンド：監査費用、租税、信託事務の処理に要する諸費用等。監査費用を除くその他費用・手数料は、そのつど信託財産から支払われます。

投資対象とする投資信託証券：各ファンドにより、監査費用、租税、信託事務の処理に要する諸費用等がかかる場合があります。

※これらの費用は、運用状況により変動するものであり、事前に料率、上限等を表示することが出来ません。

※投資家の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくはセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記述者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮しておりません。

投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

委託会社：セゾン投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第349号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

<https://www.saison-am.co.jp/>

お客さま窓口：03-3988-8668 営業時間 9:00～17:00（土日祝日、年末年始を除く）